

漁業経済学会 短 信

【第67回大会案内】

■ 開 催

場 所：東京海洋大学品川キャンパス

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学

事務局：甫喜本 憲

TEL：083-227-3854、FAX 083-286-7431

メール：fishcono@gmail.com

日 程：2020年5月29日～31日（予定）

5月29日（金）：全国理事会

5月30日（土）：シンポジウム、懇親会

5月31日（日）：一般報告、総会

この場所と日程で開催できるよう現在調整しています。確定した時点でホームページに掲載いたしますので、そちらをチェックしてください。

■ 大会参加費

大会参加費：2,000円

懇親会費：4,000円

■ 参加申込方法

事前申し込み制とする。第147号（4月末までに発送予定）に、振り込み用紙を同封しますので参加費、懇親会費を納入してください。当日受付もいたしますが、事務局の負担を軽減したいので、会員の皆様には事前申し込みへのご協力を宜しくお願いいたします。

■ 一般報告の受付

タイトル受付締切日：2020年4月17日（金）必着（締め切り厳守）

報告要旨受付締切日：2020年4月24日（金）必着（締め切り厳守）

提出先：水産大学校 甫喜本 憲

〒759-6597 山口県下関市永田本町2-7-1 水産大学校内

TEL：083-227-3854、FAX 083-286-7431

メール：fishcono@gmail.com

※メールの件名に、「漁経 2020 一般報告・送信者名」を明記のこと。「」は不要。

提出方法：一般報告のタイトル・報告要旨はメールで送付してください。

報告要旨の形式：1,600字以内。報告要旨には、タイトル、報告者の氏名と所属要旨を入れること。メールで提出する場合は、MS-Word、テキストファイル等で原稿を作成し、添付ファイルで提出すること。

■ 報告論文の開始

短信の最後に掲載しております編集委員会からのお知らせの通り、第67回大会より、一般報告におきましてはその内容の学会誌掲載を可能な限り進めることとなりました。報告される方は、その後の積極的な投稿もお願いいたします。また、当大会より、英語での発表とその投稿も受け付けることとなりました。海外の研究者、留学生の方々にも会員となっていただき、学会に参加していただければと考えております。該当する方がおられましたら、学会入会および大会参加のお声かけをよろしくお願いいたします。

■ 学会賞候補者の推薦

学会賞候補者の推薦を募集しています。

2020年4月末までに候補対象者名と理由を記して事務局(甫喜本憲)までお送り下さい。

お送り頂いたものは学会賞選考委員会に提出します。送付先：fishecon@gmail.com

※メールの件名に、「漁経 2020 学会賞推薦・送信者名」を明記のこと。「」は不要。

【第67回大会シンポジウムテーマ】

「新時代の沿岸漁業 ―あい路からの脱却は可能か―」

コーディネーター：佐々木貴文（北海道大学）

（問題意識と概要）

日本の沿岸漁業は、「漁業法」が改定されるなど大きな政策変化の時期を迎えている。ではその現場では何が起こり、何が問題となっているのか。外からの「改革」ではない自発的な「改革」や新しい動きは沿岸漁村や漁協、そして漁家型経営体にあるのか。さらには生き残りをかけてどのような取り組みが始まっているのか。本シンポジウムでは、沿岸漁業の厳しい現実に触れながらも、各地で芽生えている優れた実践事例や地域的活動をすくい取り、沿岸漁業新時代の胎動を感じ、今後の沿岸地域社会における漁家や漁協、そして沿岸漁業そのものの可能性と存在意義を模索したいと考えている。

具体的には、日本の沿岸漁業における優良な事例、評価できる取り組み、モデルとなる事例などを、「漁業者の取り組み」や「漁協の取り組み」など、いくつかの視点にわけ、それぞれを報告する。その上で全体討論をおこない、良いところや守るべきものを整理し、外部からの沿岸漁業に対する誤解や表面的な見方に対して新時代を先取りするような事例の意義を再確認することで、本来あるべき議論のスタートラインを提示したい。そして「改革」が内部からも進みつつあることや、将来を自らの手で作り出そうとしている漁村の姿があることを可視化することを目指す。

司会：鹿児島大学・佐野雅昭

報告（仮題）：各 20 分

- ①（解題）あい路にある沿岸漁業が模索し始めた抜け道とは（北海道大学・佐々木貴文）
- ②漁業者の取り組み（漁船漁業や定置網漁業を中心に）（水土舎・麓貴光）
- ③漁協の取り組み（漁場の集団的管理と漁場利用の最適化）（北海道大学・宮澤晴彦）
- ④漁協の取り組み（付加価値化、販売活動、地域活動）（東北福祉大学・望月理生）
- ⑤漁村の高齢化と対応策（高齢漁業者の先進的な取り組み）（東京海洋大学・工藤貴史）
- ⑥漁村における女性の取り組み（中央水産研究所・三木奈都子）

コメント：各 15 分（大東文化大学・山下東子）（農林中金総合研究所・植田展大）

■編集委員会からのお知らせ

昨年の理事会および総会で決定したとおり、今期から投稿規定および執筆要領が改訂されます。要点は下記の 2 点です。つきましては、学会ホームページをご覧ください、新しい改訂後の投稿規定および執筆要領に則って、学会誌への投稿をお願いいたします。掲載論文が少なくなっております。積極的な投稿を重ねてお願いいたします。

1. 新ジャンル「報告論文」を新設いたします。学会大会で一般報告された内容について、報告者が希望する場合、「報告論文」として学会誌への掲載を可能な限り進めます。また、このジャンルの定義や査読は「論文」に準じることとします。
2. グローバル化に対応し、英語論文の受付を始めます。

学会誌編集に関するご質問やご連絡、投稿のご相談などは、gyokeied@gmail.com までお願いいたします。

以上です。

【編集後記】

今期から新しく総務を担当することになりました水産大学校の甫喜本です。いろいろと不慣れな為、今回のニュースレターも発行が遅れてしまいました。すみません。至らない点が多々あると思いますが、今後ともご指導、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

学会短信 No. 146

2020. 1. 15

漁業経済学会事務局（総務：甫喜本憲）

〒759-6597 山口県下関市永田本町2-7-1 水産大学
校内

（国立研究開発法人水産研究・教育機構：略称：水産機構）

TEL：083-227-3854、FAX 083-286-7431